

あとがき

至適透析の量や効率に Kt/V for urea, $(Kt/V)/t$ for urea を指標とする概念が一般化してきた。ところで、これらの数値はスタンダード膜でもハイパフォーマンス膜でも同一なのであろうか。もしそうなら、中分子領域以上には少なくとも mortality に影響を及ぼす uremic toxins は存在しないことになりはしないか、以前より疑問に思っている。ここ数年ハイパフォーマンス膜の使用率が急上昇している。それにともなって、 $(Kt/V)/t$ for urea の至適上限が不明瞭になってきたことは中分子領域以上にもそのような uremic toxins が存在するという証左ではないか、しからば t が短縮しないのはなぜか。

このたび日本透析医会雑誌の印刷所を(株)三秀舎に変更した。1900年創立の伝統ある出版印刷会社で奥付にある通り場所も当医会事務局に近い編集にも便利である。

年が明ければ、いよいよ20世紀最後の年1999年、誰がみても時代の変わり目、変動期である。会員諸兄のご多幸を祈念してやまない。

(広報委員長 奥田健二)